箕面市役所 Meets Art

市役所にはもう一つの滝がある

箕面の森アートウォーク プロジェクト in 箕面市役所

MINOH DREAM

箕面の山々で思い描いた人々の夢のかたち

箕面市誕生 70th Anniversary

2026.11/4(水) ▶ 2027.3/26(金) 会場 箕面市役所 本館

●OPEN: 9:00 ~17:00 ●CLOSE: 土日祝、12月29日~1月3日

※土曜日開庁日（第2、4土曜日、ただし3月は毎週開庁）は1Fロビーと本館屋上エントランスのみ鑑賞可。

主催：箕面市　企画・運営：箕面の森アートウォーク実行委員会　協力：コンテンポラリーアートギャラリー Zone

古代、中世、近代、現在、そして未来・・・
人々は箕面の山々で何を思い、どんな夢を見るのだろうか？
「箕面の森アートウォーク」ゆかりのアーティストたちが示す
MINOH・・・その夢のかたち。

箕面市役所には、箕面の山々をまぢかに一望できる屋上広場や、多彩な大佛タイルで描かれた、箕面の滝がある。

そんな市役所の空間に、箕面滝道で開催する「箕面の森アートウォーク」にて、作品を展示してきたアーティスト達による、サイトスペシフィックなアートが集う。

この場でしか体験できない、あなたの「MINOH DREAM」と出逢う時間。

「箕面の森アートウォーク」

2013年から箕面滝道を舞台に、関西を中心に活躍する現代アーティストを招待し、サイトスペシフィックアートの展示やパフォーマンスを企画・開催、2025年には瀧安寺特別拝観と合わせ、「瀧安寺プロジェクト」を開催してきました。

サイトスペシフィックアートは設置される環境や文化、歴史そしてそこに関わる地域の人々の生活を反映した作品を指します。

地域の人々の生活に密着し、現代アートの仕掛けにより来訪者が箕面の歴史、文化（風土）とかかわり、その自然や風景の再発見に繋がることを目指してきました。

大佛タイル

京都の瓦専門会社"大佛組"が作った「清水焼」をベースにした建築用装飾タイルで、基本的にオーダーメイドの特注品として作られました。近年の近代建築見学ブームで注目されつつあります。箕面市役所の壁面にはこの大佛タイルが随所に使われています。注目すべきは中庭の壁面で、日本画家、丸山石根（1919-1999）作の作品で、箕面の滝が、数種類のタイルを使って描かれています。

展示アーティスト

今井祝雄



5 ヴォワイヤン・プロジェクト「滝を見るヴォワイヤン」
素材：強化プラスチック（FRP）

世界各地の美術館に所蔵されるなど、世界的に知られたアーティスト。現代アートの「ハプニング」や「パフォーマンス」の先駆けとなる表現手法を生み出し、国際的評価も高い具体美術協会（1954年結成）の元会員。

中庭のベンチでタイルの滝を眺める「ヴォワイヤン」はフランス語で「見る人」。"見られる像"でなく、それ自体が何かを"見る像"である。「ヴォワイヤン」の後見人として、「箕面の森アートウォーク」開始以降、すべての回に参加。



岡本光博



13 **2** 「トラロープ」　／素材：標識ロープ、FRP

コンセプトを全面に押し出し、それを具現化する為にあらゆる手段を講じるアーティストである。

かって箕面に日本初の民間の動物園（1910年開園）があった。その史実を元に、2017年の「箕面の森アートウォーク」で、動物園跡地での『トラロープ』の展示を試みたが、実現に至らなかった。今回、屋上広場の空調設備機材室を檻に見立て「トラロープ」を展示。1Fロビーではトラの頭を展示。トラロープ（正式名：標識ロープ）は、"境界"を生み出すラインである。





橋本修一



「箕面曼荼羅」　素材：デジタルプリント

3 **6** 「MINOH DREAM」 **7** 「白龍プロジェクト」 **8** 「龍と箕面大滝」
9 **10** 「現代弁財天絵図」 **11** 「箕面山曼荼羅図」 **12** 「箕面動物園図～スパーガーデン今昔」

「箕面の森アートウォーク」のすべてのアートディレクションを担うデザイナー。長年自身の足で、箕面の山々や街を歩き尽し、そこから生まれるアイデアや作品には確かなリアリティがあり、その知識は実に広範で深い。

箕面山と滝道を舞台に、聖と俗、現在と過去が重なりあう「箕面曼荼羅」を館内の随所に展示。「龍と箕面大滝」は、中庭のタイルの滝からイメージし制作。





浜本隆司



1 「世界を照らす」　素材：キャンバス、アクリル絵具

彼の描く絵画の多くには「空」が描かれている。それらの絵画は、古来より日本人が抱いてきた自然観や人生観を映し出す。

人の命は儚く、世は移り変わる—その人生の真理を、この絵画は静かに表している。古来より鳳凰が現れることは瑞兆（吉兆）と言われてきた。今、この世界に鳳凰が出現することで、より良きものが世界にもたらされるのではないか、そんな願いを込めて描かれ、「瀧安寺プロジェクト」（2025）で客殿にて公開された。



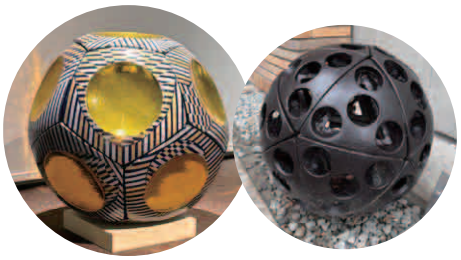
南野馨



4 「Untitled 2302」　素材：陶

「箕面の森アートウォーク」で陶製の球体作品を展示してきた。その機能美は他のいかなる形態よりも優れ、完成されていると考える作者は、長年球体に魅了され続ける。今回は中庭のタイルの瀧の前に、滝壺の泡や水滴に見立てた展示を試みる。

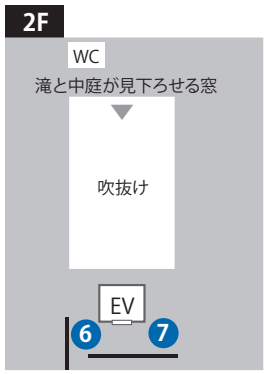
古代の人々は、球体、そして光を宿す水滴に霊性や永遠性を見出し、珠玉を神聖視した。瀧安寺を開いた役行者には、口に含んだ水を噴きかけると、それが瞬く間に美しい珠玉に変化したという逸話が伝わる。

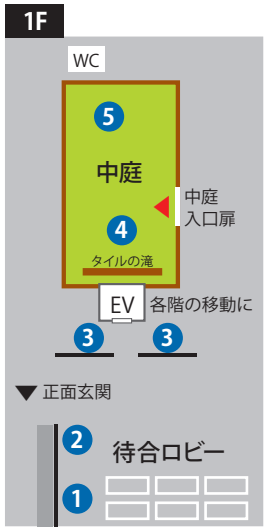


展示場所



※3Fでの展示はありません。





※展示作品と場所は都合により、変更になる場合があります。